

# 世の中の変化を見据えて、 人生設計や家計プランを改めて考える。



中央労働金庫 渡邊理恵

和泉昭子さん

「家族がどんな暮らしをしたいのか」  
を改めて考える。

渡邊 現在、少子高齢化が進み、現役世代が高齢世代を支えるというシステムが難しくなり、私たちがこれまで経験したことのない社会になっています。人生設計を考える上でも、これからどうなるのかという不安を皆さん抱えていらっしゃると思います。

和泉 そうですね。昨年から日本の人口が減少に転じ、少子高齢化と相まって、社会のしくみが大きく変化しています。経済面では久々の景気回復に沸く一方、デフレからインフレに転じる懸念や、定率減税廃止、医療費の負担増など、家計にとって厳しい要因も引き続き多く抱えています。

私は色々な労働組合の方と接したり、個人の家計アドバイスをしていますが、2004年の年金改革以降は、景気回復しても、将来に対する根本的な不安感は拭えないという方が多いようですね。ただ、皆さん漠然とした不安はあるものの、人生設計を見据えた中で、どのようにして資金準備をしていけばいいかわからないという印象を受けます。

渡邊 そういった不安を解消していくために、私共では労働組合と一緒に、人生設計につ

いての相談会やセミナーなどを定期的に行っています。和泉さんは、人生設計に関してどんなアドバイスをされていますか。



和泉 私が最近よく申し上げるのは、「今は、人生設計やお金について、これまでのやり方や思い込みを一度リセットする転換期」だということです。

人口減少社会では、現役の労働者の数が少なくなりますが、多くの人が70歳くらいまで働くことが当たり前の時代になり、女性も強力な労働力として期待されるようになるでしょう。つまり、扶養家族であった主婦や高齢者は、これまで受けられていた優遇が期待で

きなくなるということです。また、子どもの将来を考えると、少子化で誰でも大学に入れる時代になれば、学歴より、実際にどのような力を身につけているかということのほうが重要になってくるでしょう。

このように、すべてが今までと違う尺度で測られる時代に入ってきているのです。ですから、人生設計を立てる上では、これまでベースにあった常識と思われることを忘れ、まず、「自分たち家族はどういう暮らしがしたいのか」ということからスタートすることが大切です。そして、どう働きたいのか、どんなふうに住みたいのかという夢や希望を、できるだけ具体的にイメージして、それを実現できるマネープランを立てることが必要になります。

金利の低いローンへの借換えは、  
今がチャンス！

渡邊 では、家計を見直す際のポイントはどんなこととお考えですか。

和泉 当たり前のことですが、家計の改善では収入を増やすか支出を減らすしかありません。収入を増やす方法のひとつに、株式や外貨といった運用商品の活用があります。

従来、物価スライドだった公的年金は、前回の改革で、大きなインフレがあると物価の上昇についていけない仕組みとなりました。また近い将来、消費税増税もささやかれており、こうしたインフレリスクにも、きちんと対応できる資産管理が必要になっています。

支出を減らすには、光熱費など変動費の節約だけではなかなか効果が上がらないので、固定費を減らすことが重要です。住宅や車、教育などのローンがあるなら、金利の低い商品への借換えをおすすめしています。労が少ない割に効果が大きいですし、今は低利で固定できる最後のチャンスだからです。3月に、日銀が量的緩和の解除を発表し、今後、金利は徐々に上がってくるでしょうから……。

中央ろうきんさんのローンは低金利のもの

が多いので、私のお客さまにもおすすめしているんですよ。

渡邊 それはうれしいですね。私共では、会員の皆さんの家計負担を減らすために、「生活応援・家計カイゼン運動」に取り組んでいます。この運動は、当金庫の低利なローンや積立預金をご利用いただくことで、住宅ローンや教育ローン、自動車ローンの支払い負担を軽減し、計画的な貯蓄をご提案させていただきますというものです。

具体的な取り組みとしては、セミナー、相談会の開催やローン支払負担減に役立つ「家計カイゼンアンケート」を行っています。

運用商品については、これから取り組んでいきたいと考えています。

社会貢献活動は  
目に見えない金利と考えると、  
還元していくことも大切。

渡邊 先ほど和泉さんがおっしゃった「どう暮らしたいか」という中には、地域や社会への参加もあると思います。お金だけではなく、心も豊かに、長い人生を楽しく、充実したものにしてほしいと考えている人が増えています。

私共では、地域社会のくらしや福祉の課題に取組むNPO法人向けの融資制度の取扱いをはじめ、「中央ろうきん社会貢献基金<sup>\*</sup>」を活用した市民団体への助成、働く人・シニア生きがいづくりに関わるセミナー開催など、ろうきんらしい社会貢献活動の実践に努めています。

和泉 自分の預けたお金が、NPOや市民団体の活動に使われるというのは、非常にいい循環ですね。将来への不安が、預金を通じて安心につながっていくのですから。

今後、世の中が変わっていく過程で、いろいろなシステムや制度が追いついていかないこともあります。そうした時に、人の力で見守ったり、助け合いをして総合的に対処していかないと、これからの社会は成り立たないと感じます。



の会の役割がさらに大切になってくると思います。

和泉 高齢社会では、現役時代だけでなく、生涯にわたってつきあえる金融機関の存在が、ますます重要になってくるでしょうね。

誕生5周年を迎え、  
これからも夢をかなえる  
生涯のパートナーとして努力を。

和泉 これまでお話を伺って、中央ろうきんさんの理念や活動に触れることができ、魅力的な金融機関だと感じました。

会員の方は、こうした理念や商品、社会貢献活動などについて、よくご存じだと思いますが、そのご家族や広く一般消費者にも、もっとアピールしていただきたいですね。

また、いろいろ変化が起こる中で、身近なところで生涯にわたって相談できるパートナーがあるのは心強いと思います。

渡邊 おかげさまで、今年4月に中央ろうきんは誕生5周年を迎えました。これから、厳しい経済状況の中で、皆さんの生活を金融面で守っていくという役割はますます重要になってきますし、組合の必要性を強く感じています。

今後も、世の中のさまざまな変化に対応しながら、より良い商品提供を強化し、会員の皆さんの夢をかなえる生涯のパートナーとして努力を続けてまいります。

本日はありがとうございました。

和泉 ありがとうございました。

**profile** 生活経済ジャーナリスト/  
ファイナンシャル・プランナー  
**和泉昭子** (いずみ あきこさん)

(株)福武書店(現ベネッセコーポレーション)、(株)日本短波放送勤務を経て1988年フリーのキャスターとしてテレビ、ラジオで活躍。1995年、CFP取得後、ファイナンシャル・プランナーとして活動開始。2002年、キャリアカウンセラーの活動を開始。現在、生活経済ジャーナリストとして、マネー&キャリアに関する情報を発信。主な著書に、「シングルのための夢をかなえるマネー作法」「災害危機 お金事前対策(共著)」など多数。

**著書紹介**

「自分でつくる理想の年金」(共著)

出版社:法學書院  
価格:1,260円(税込)

長いセカンドステージを豊かに生きるための、女性に向けた年金づくりガイドブック。老後資金は、いくら必要なのか、資金づくりや家計の見直しのポイントをわかりやすく紹介。

\*「中央ろうきん社会貢献基金」は、中央労働金庫が社会貢献活動の推進を目的として、2002年4月に設立した基金の名称です。